

# 新年の五穀豊穡を願い「弥生画」奉納

## 山道町内会

12月30日、山道町内会（一戸秀久会長）はくろおかみ閻籠神社に大小2つの弥生画を奉納しました。弥生画はともに2026年の干支「午」にちなんだ作品で、大きい弥生画『那須与一 扇の的』（縦1.9m横3.2m）は大人たちが制作し、小さい弥生画『チャグチャグ馬こ』（縦1.3m横2.1m）は町内の子供たちが手がけました。

一戸会長は「上出来な弥生画になった。午年なので厄災などを蹴り、平和で安泰な1年になってほしい」と話していました。



弥生画「那須与一 扇の的」と山道町内会

## 元町弥生会

12月31日、元町弥生会（吉田亘会長）は鶴田八幡宮に弥生画を奉納しました。元町弥生会の画題は、新年の干支にちなんだ「親子馬」（縦1.9m横3.2m）。11月中旬から、会員らが鶴田八幡宮の神楽殿に夜な夜な集まり作業。黒豆や小豆、コメなど10数種類の穀物を貼り付け、馬の毛並みや立体感を表現し、新年の干支である2頭の勇ましい「午」を描きました。

吉田会長は「無事に奉納できてほっとしている。災害のない穏やかな1年になってほしい」と話していました。



弥生画「親子馬」と元町弥生会

## 1/6 代表目指して 更なる活躍誓う

町長表敬訪問 柔道・永田大和（筑波大学）

全国レベルの柔道大会などで活躍した町出身で筑波大学4年の永田大和さんが、相川町長に大会の成績報告を行いました。

永田さんは昨年の関東学生柔道体重別選手権男子60kg級で優勝したほか、全日本学生柔道体重別選手権大会では3位入賞など活躍。町役場を訪れた永田さんは「成長し、こうして報告できたことがうれしい。これからも世界大会の日本代表を目指して頑張っていきたい」と語りました。永田さんは今年県内で行われる国民スポーツ大会の県代表入りも目指している。



大会成績などを報告した永田さん（中央）



Vol.102（筆：葛西 忍）

先日、羽田空港の中心でスチューベンを叫んできました。

というのは、1月16日に羽田空港内で実施したスチューベンのトップセールスに同行させていただきました。直に消費者の方の声を聴くというのは楽しみでもあり、怖くもあり。お客様へスチューベンの魅力を伝えること、お客様からの質問を受けるということは3月の卒隊を控えた私にとって、この3年間スチューベンの栽培を学んできたことをお客様を通じて確認する試験みたいなものでした。また、実際に販売の場に立つと、どんな言葉が「刺さる」のか、どんな商品を欲しているかなど新たな気づきやヒント、アイデアが生まれ、4月からの就農に向けての新たなモチベーションともなりました。

末筆ではございますが、今回お声がけいただき、段取りくださった関係者各位に感謝申し上げます。



▲スチューベンの魅力をアピールする葛西さん



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。



剪定の実演を行う谷口さん

## 1/5 年初めからりんご剪定学ぶ りんご剪定会

鶴田地区りんご支会連絡協議会などが、町役場近くのりんご園で高品質りんご生産に向けた毎年恒例の「りんご剪定会」を開催しました。

会場には町のりんご生産者約100人が訪れました。今年には平川市のりんご生産者・谷口秀樹さんが初めて講師を務めました。谷口さんは剪定のポイントとして、「日当たりと風の通りを計算しながら剪定をしていき、全体のバランスを見ることが良質な果実の生産につながる」などと解説をしながら実演を行っていました。

## 1/16 生産者とともにスチューベンPR 冬ぶどうつるたスチューベン トップセールス

つるたスチューベンの魅力を広く発信するため、羽田空港内「羽田産直館」において、生産者（「つるたスチューベン日本一推進協議会」・地域おこし協力隊）と相川町長らがトップセールスを実施しました。

当日は、首都圏の玄関口である羽田空港を訪れた多くの来場者に向けて、スチューベンの濃厚な甘みやジューシーさを試食を通じて直接PR。また、販売ブースでは生産者自らが来場者と交流し、食べ方や特徴などを紹介。顔の見える販売を通じて、スチューベンの魅力を伝えていました。



スチューベンのPRを行う相川町長と生産者



実験の方法を教わる児童たち

## 1/27 子供たちが半導体役割学ぶ 五所川原地区ものづくり連絡会「ものづくり」出前授業

五所川原地区ものづくり連絡会は鶴田小学校で6年生の児童を対象に、ものづくり出前授業を行いました。

同連絡会は工作や実験を通して、子供たちに「ものづくり」の楽しさや地元企業に興味を持ってもらいたいと小学校など出前授業を行っています。

授業では実際に半導体を使って電球を光らせる実験に挑戦。半導体が微弱な電流を増幅させ電球が明るく点灯すると、教室には歓声が上がりました。授業を受けた児童は「実験を通して半導体が私たちの生活を助けていることがわかった」と技術の大切さを学んでいました。

# 地域おこし 協力隊通信

Vol.103 (筆：葛西あゆみ)

地域おこし協力隊の任期もこの3月までとなりました。私たちのミッションであったスチューベン農家への就農に向け、失敗と学びの日々でしたが、師匠の温かいご指導、役場の皆さまの親身なサポート、そして地域の皆さまの励ましのおかげで、このたび4月から「葛西果樹園」として独立し、就農できる見通しとなりました。失敗や不安もたくさんありましたが、鶴田町の人々のあたたかさや何度も背中を押していただきました。これからは一農家として、スチューベンの魅力と鶴田町の良さを発信し、地域に恩返しできるよう精進してまいります。

この協力隊通信も今回で最後となりましたが、「読んでるよ。」と声をかけてもらえる、気恥ずかしさとともに、とても励みになりました。今まで本当にありがとうございました。そしてこれからもどうぞよろしく願いいたします。



▲土手に登る葛西さん



▲葛西果樹園のロゴ



Facebook



Instagram

地域おこし協力隊の活動内容は、各種SNSでも確認することができます。